

令和3年度 第1回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 令和3年4月27日（火） 17:00～18:00
II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
II. 出席者： 片岡主査、神原委員、廣井委員、三浦委員、原島委員、山元委員、小原委員、
中山委員、二瓶委員、川島委員、井端事務局長、森下

III. 資料

- ① 私立大学情報教育協会 2021年度事業計画書
- ② 2021年度実験授業の検討日程について（事務局メモ）
- ③ 2021年度医療系分野のテーマについて（事務局メモ）
- ④ 2020年度第3回委員会議事概要
- ⑤ 参考資料 1～10

IV. 議事概要

1. 2020年度の事業計画について

資料①を用いて2020年度の事業計画について以下のように事務局から報告された

2021年度は、医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学・栄養学・社会福祉学分野の高学年を対象に、コロナ禍時代の持続可能な医療と健康生活の実現に向けた解決策を提案する「多職種連携型PBL 授業」を試験的にを行い、有効性を研究することにした。

2. 2021年度の医療系分野の活動計画について

2020年度の事業計画に基づいて以下の3点に取り組むことを確認した。

- ① 2021年11月頃を目途にネット上でPBLの実験を行うことを目指して、テーマの設定、到達目標、授業デザイン、授業環境、授業運営等の詳細計画を研究し実験授業を行う。
- ② 実験授業の結果について2022年1月（予定）の分野連携アクティブ・ラーニング対話集会で報告する。
- ③ そのため、本年度は6回程度の委員会を開催する。

3. 実験授業のテーマについて

前回の委員会で事務局から提案された「コロナ禍時代の持続可能な医療と健康生活を考える」を基本にしてネット上で多分野・複数大学の医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学・栄養学・社会福祉学、法学、政治学分野の高学年生によるチームを構成し、分野を超えて健康長寿社会の実現に向けた実際の解決策を提案・評価する「多職種連携型PBL 授業」の授業デザイン、授業環境、授業運営等の詳細計画を研究することについて、今まで医学系で進めてきたPBL(Problem Based Learning)の学修プロセスでなく、新しい授業の取組みとして今回の実験授業を検討することにし、事例として政治学分野の模擬国連について説明いただいた。

(1) 政治学分野の模擬国連について

- ① 模擬国連は、参加者一人ひとりが世界各国の政府代表を演じ、実際の国連会議と同様に、各国の立場から国際問題について討議することで、国際政治の仕組みを理解し、国際問題の解決策を考え、コミュニケ、ステートメントなどをとりまとめる過程を体験する実践型の授業を通じて国際問題への関心・交渉力・視野を広げることが可能になる。
- ② 但し、ボードメンバー、議会事務局の役割、シナリオ、何を議論すべきか、意見の集約に向けた議題解説書による成否、グループの構成、事前準備、など教員の負担は非常に多い。
- ③ 医療系分野の職種連携型実験授業でも、分野連携で国会等に各職種の代表が集まって政策

提言するようなイメージであれば考えられる。

- ④ 学生がオーガナイズし、5 回くらいの授業で今回のテーマ「コロナ禍時代の持続可能な医療と健康生活を考える」について、ネット上でホワイトボードを使ってまとめ、提言、成果文章をまとめることなどは考えられるが事前準備なども含めてよほどうまくリードしないと難しいと思う。

(2) 新しい授業の取組みとしての実験授業について

資料③の「コロナ禍時代の持続可能な医療と健康生活を考える」をテーマにした授業デザインについて、再度確認し、意見交換を行った。

<主な意見>

- ① コロナ禍で「孤立」している学生をネット上のこのような授業で救えるのではないかな。
- ② 「コロナ禍時代の持続可能な医療と健康生活」は学生の関心も高く、プロブレムイシューで考えさせることは非常に良いと思う。
- ③ 新しいメソッドを開発していく意味でも意義があり、他へも応用できるのではないかな。
- ④ 多分野の学生とのディスカッションを積極的に行う、受け身でなく主体的に取り組むこと、これも一つの評価になるのではないかな。
- ⑤ まずは、学生が興味をもって積極的に参加することが第一である。コロナ禍の不自由な経験の中で、学生が何を考え、何をすべきと思ったか、現状をどう変えて行くかを考えることが一番重要である。
- ⑥ コロナ禍で大きく変わった価値観、人権、生活などへの影響、医療のあり方「生命を守る医療、健康を守る医療、生活を守る医療」、「なんで日本はワクチン後進国になったのか」、「医療先進国の日本でなぜコロナ病床が無いのか」など、テーマは多いと思う。
- ⑦ 前回のテーマ「健康長寿社会」では、高齢者問題が学生にピンとこず、自分のこととして考えられなかった。今回のコロナ禍の体験は正に学生に自身の問題として考えさせることができる。また、新聞、ネット、厚労省などに多くの情報があり活用できるので、特別なリソース授業は不要と思う。
- ⑧ 今までやってきたPBLとは異なるが、新しい教育方法の開発という視点で考える意味はあると思う。
- ⑨ テーマに、「コロナ禍時代の持続可能な医療」と「健康生活を考える」の2つあり、難しいので絞ってはどうかとの意見があり、医療の面と健康生活の面どちらでも検討できるように、「コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える」に改めることにした。
- ⑩ 学生に考えさせること意味があると思う。何もかもガイダンスして進めるのではなく、自ら積極的に調べて考えさせる。(例えば「自分がワクチン担当大臣だったらどうするか」)、5 回程度の実験授業のスケジュールを決めて、後は学生に自主的に考えさせ、報告書を出させるなどでも良いのではないかな。
- ⑪ 20 年、30 年先を考えるとこういう視点は必要である。自分の分野にとらわれて柔軟な発想が出ないことが無いように工夫したい。また、学生の負担にならないこと、議論が行き詰ったときのアドバイス等の工夫が必要と思う。
- ⑫ テーマ的には面白いと思う。また、学生が当事者なので議論しやすく、モチベーションが高い学生を参加させれば各職種の代表を意識した議論ができるのではないかな。

4. 実験授業のスケジュールと参加学生について

4年生を対象にして、9月下旬から11月上旬で可能かどうか。

- ・ 栄養学 : 臨地実習、卒論などで厳しいが一部の学生は可能かと思う
- ・ 看護学 : 4年生の一部の学生は可能かと思う。
- ・ 社会福祉 : 3年は実習 4年生は国試で難しく可能性があるのは2年生
- ・ 薬学 : 4年生はCBTとOSCIで難しい。3年生が可能かは検討してみる。

全員4年生を対象に限定すると難しい分野があるので、医・歯・薬系では5年生を対象にするなど、モチベーションの高い学生を対象に実施することにし、各大学から1・2名の参加者を募り、1~2グループで実験授業を実施したいが、できれば各大学2名で2グループを目指したい。また、倫理委員会についても検討する。

5. 参加学生について

リハビリの参加は確定していないので外し、幅広く議論するため、委員に協力いただき、法学系(神奈川大学)、政治学系(明治大学)の学生にも参加いただくことでディスカッションの幅を広げるようにする。

6. 実験授業の進め方について

- ① 評価については、各学生が熱心に取り組む、良いプロダクトができれば良い。解決策について考えることが大事であり、このことが将来の役に立つと思う。
- ② 進め方については、細かな「ガイダンス」、「決めつけ」を行わないで、学生が主体的にネット上でホワイトボードを使ってディスカッションし、WordやPPTなどでまとめて報告できれば良いと思う。枠をはめないで学生に考えさせることが重要などではないか。
- ③ 1グループ7名程度で構成しZoomでディスカッションし、ホワイトボードで共有し、WordやPPTなどでまとめてメール等で報告できれば良い。枠をはめないで学生に考えさせることが重要ではないか。

7. システムの検討について

- ① Zoom、Googleなどの汎用的なアプリケーションで検討する。
- ② Googleのアプリケーションでできるのではないかと考えているので検討してみる。
- ③ この場合、Googleのアカウントが私情協で取れないか。→無理と思う。
※ 2年前の第一段階の実験時に私情協も教育機関ということで試みたが、ダメだった。
このためGlexaを使用。また、本年度の社会スタディではZoomのブレイクアウトルーム機能とホワイトボードを利用して学生の意見交換を実施している。
- ④ Zoomのホワイトボード機能を画面で確認した結果、使えると思うが資料の配布ができないため、Lineなどを組み合わせることが必要
- ⑤ 参加学生に新しいGoogleの個人アカウントを取ってもらうことでGoogleのアプリケーションでできるのではないかと考えている。但し、日常使用しているアカウントと別になるので使い分けが必要となり盛り上がり欠けるのが欠点と思う。
- ⑦ 以上の検討を踏まえて、Zoom、Google、Lineの活用などを整理し、汎用的なプラットフォームで実施することを検討する。

8. 次回の委員会について

(1) 日程

6月22日、23日、29日を候補に委員のご都合に合わせて日程を決める。

※ 日程調整の結果、6月23日15時に決定

(2) 検討内容

事前準備と授業内容(5コマ)の目標と進め方、有識者及び関連資料の探索、ファシリテートの体制、「学生への参加呼びかけ」などについて検討する。